

産後におけるオンライン診療の有用性について
—産後うつの早期発見と発症予防のために—

埼玉県産婦人科医会理事
越谷市立病院 産科 科部長
西岡 暢子

- 新型コロナウイルス流行下におこなった妊産婦オンライン相談
- 産後2週間健診の必要性とオンライン健診

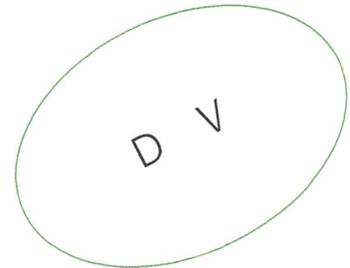
はじめに



立ち会い分娩
中止



- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下において妊産婦は社会的に孤立しやすく、支援が必要である



新型コロナ流行下の 妊産婦心のケア 無料オンライン相談窓口

埼玉県産婦人科医会では2020年5月よりオンライン診療アプリ(CLINICS)を用いた無料オンライン相談窓口を開設

新型コロナウイルスに対し不安を感じている妊産婦を対象にオンラインでの心のケアを行った

新型コロナウイルスの時代に妊娠・出産される妊産婦さんへ

妊産婦の心のケア 無料オンライン相談窓口



埼玉県内で妊婦健診を受けている方、分娩を予定されている方、産後で埼玉県に在住されている方は誰でも相談できます
費用：無料

埼玉県産婦人科医会では、新型コロナウイルスに対し不安を感じている妊産婦さんの心のケアを目的とし、オンライン診療アプリ（CLINICS）を用いた無料オンライン相談窓口を開設しています。
アプリから24時間予約可能です。平日、スマートフォンやパソコンの画面を通じて、母と子のメンタルヘルスケアに精通した助産師や医師が対応いたします。
（1回30分程度）

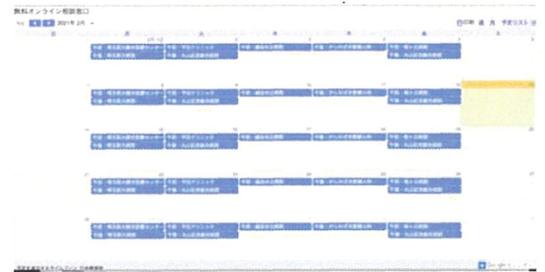
※新型コロナウイルスに関する一般的な相談は、「埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター（24時間受付）」をご利用ください。

埼玉県産婦人科医会ホームページ
<http://sai.umin.jp/schedule/information-covid-19.html>
埼玉県ホームページ
https://www.pref.saitama.lg.jp/a0704/boishi/boishi_ninnpunominasama.html



利用方法

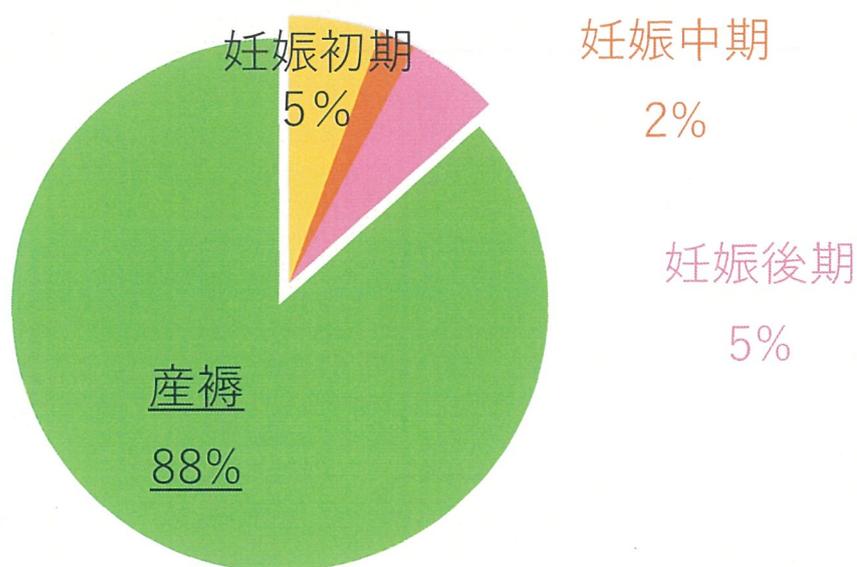
- 埼玉県内で妊婦健診を受けている方、
分娩を予定されている方、
産後で埼玉県に在住されている方であれば
利用可能
- スマートフォンやパソコンの画面を通じて
24時間予約可能
- 月曜日から金曜日 1回30分程度
- 妊産婦メンタルヘルスケアに精通した医師、
助産師、看護師、臨床心理士が担当



オンライン相談 利用者内訳

- 2020年5月より2021年10月まで174人が利用
- 利用平均年齢 31歳 【20-42】
- 初産婦66名 経産婦108名

オンライン相談 利用時期



産褥期の利用が88%
と最も多かった

オンライン相談 相談内容

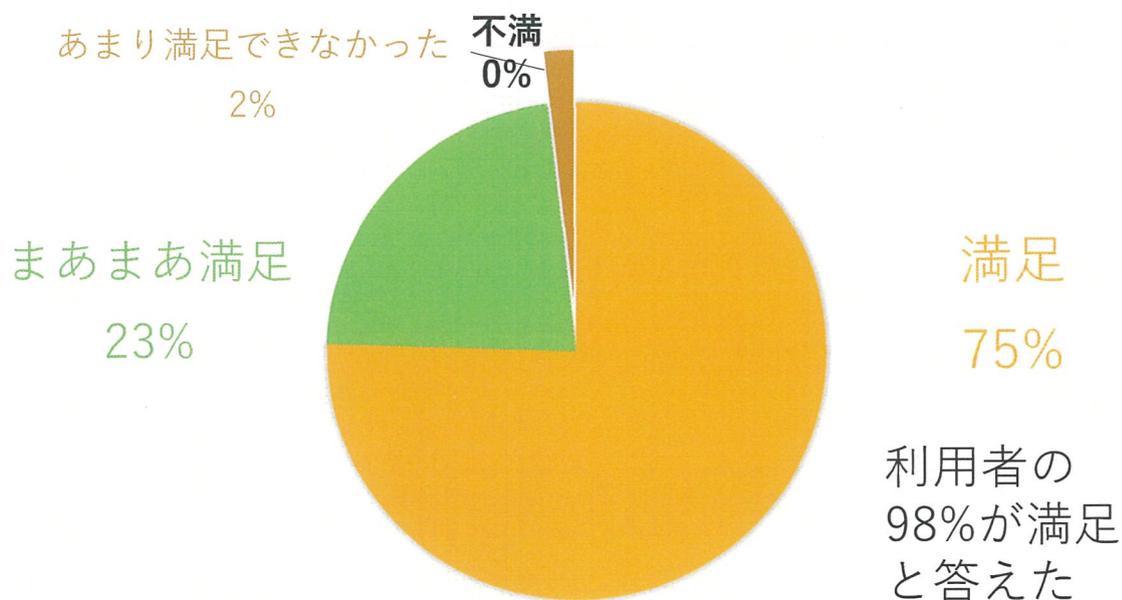
感染に対する相談

- 職場での感染に対する不安
- 家庭内での感染に対する不安
- 外出時の感染に対する不安
- ワクチン接種について

感染以外の相談

- 育児に対する相談
- 母乳育児に対する相談
- 産後の脱毛
- 不眠
- 気分の落ち込み
- 精神疾患の悪化

アンケートによる満足度調査 (n=53)



アンケートによる満足度調査 (n=53)

好意的意見

顔が見えるのが良い
表情が見えると安心できる
赤ちゃんの様子を見てもらえる
外出をする必要がない
感染のリスクがない

改善点

通信環境に左右される
少し会話が遅れる
もっと普及して欲しい

小括 1 オンライン相談について

- 産褥期での利用が全体の88%と多かった
- 感染に対する不安のほか、育児や授乳、精神不調に関する相談も多く見られた
- 利用者のうち約98%がオンライン診療に満足と答えた
- オンライン相談は新型コロナウイルス流行下、利用者、医療者双方の感染リスクなく、安全に行うことができた
- 電話相談と違い、相談時相手の顔や表情が見えることが高評価につながった
- オンライン相談を含めたICT（Information and Communication Technology 情報通信技術）の活用は妊産婦の孤立を防ぎ精神的な支援につながる可能性がある

→産後健診をオンラインで利用できないか検討

- 新型コロナウイルス流行下におこなった妊産婦オンライン相談
- 産後2週間健診の必要性和オンライン健診

産後2週間健診の必要性和 オンライン健診でのメンタルヘルスチェック

- 周産期のメンタルヘルスの問題は誰にでも起こり得る出来事で、約7人に1人(10~15%)の女性が産後にうつ病を経験する

O'Hara M, Swain A. Rates and risk of postpartum depression – a meta-analysis. *International Review of Psychiatry*. 1996;8:37-54.

- 産後うつ病は産後数か月以内に発症し、好発時期は産後4週以内である

Yamashita H, Yoshida K, Nakano H, et al.: Postnatal depression in Japanese women. Detecting the early onset of postnatal depression by closely monitoring the postpartum mood. *J Affect Disord*, 58(2):145-54, 2000

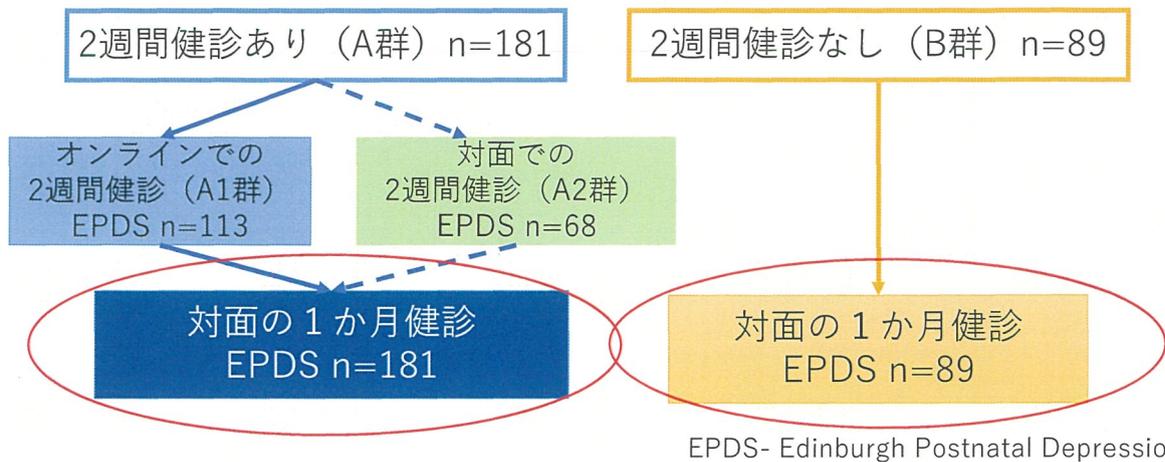
- オンラインによる健診は新型コロナの流行など対面診療が難しい状況でも対応可能であり、外出が難しい産婦にとって利便性が高い
- 言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションが使えるため、対面診療と同等の対応が可能

→倫理委員会を通し、多機関共同研究を開始

目的

- 産後うつ早期発見のための産後2週間健診の有用性について検討した
- オンラインを用いた産後健診の有用性について検討した

プロトコール



A群とB群の1ヶ月健診でのEPDS \geq 9点の症例数比較し、産後2週間健診の有用性について検討
オンラインでの2週間健診の有用性について検討

産後オンライン健診の受診方法



- ① 分娩で入院中に産後2週間でのオンライン健診について説明
- ② 利用者はCLINICSから予約をいれる
- ③ 予約時にEPDSに回答する
- ④ オンライン健診を担当する医療従事者はEPDSを事前に確認
- ⑤ オンラインで相談を行う
- ⑥ EPDS9点以上などフォローが必要と判断した場合は適切に対応する

対象

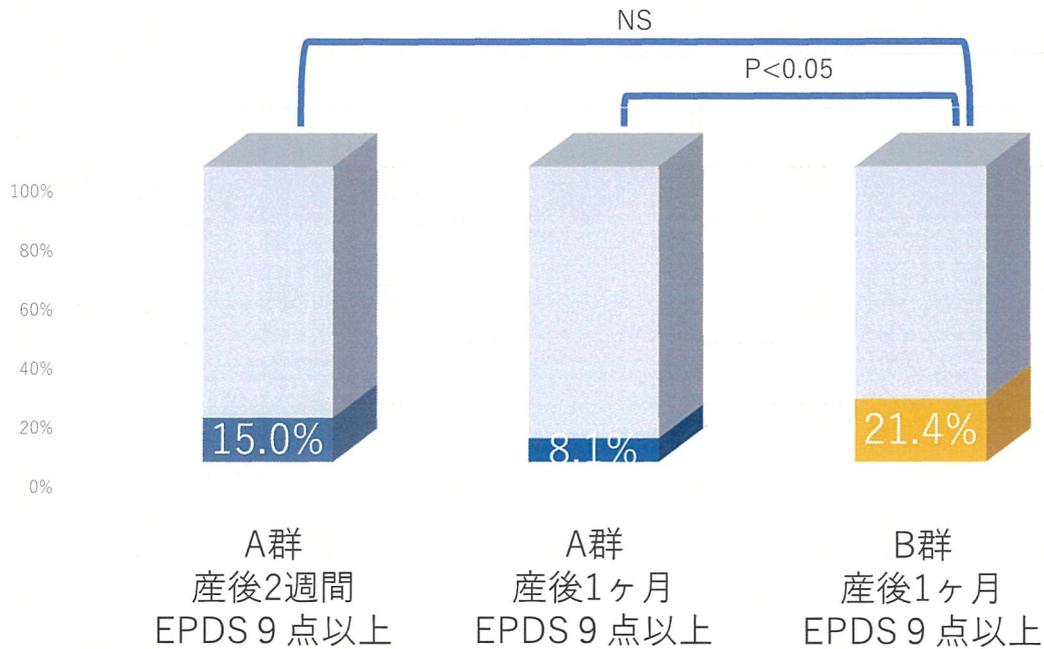
- 期間 2011年11月1日から2022年3月31日
 - 埼玉県内の8医療施設で分娩
 - 文書による同意を得た291名のうち児の経過が良好であった270名
-
- 2週間健診あり 181名
 - 1ヶ月健診のみ 89名

症例の背景

	A群 (n=181)	B群 (n=89)	p-value
平均年齢	32.3±5.3	33.0±5.6	NS*
初産婦	79(43.6%)	28(31.5%)	NS
帝王切開分娩	68(37.5%)	36(40.4%)	NS
急速遂娩	44(24.3%)	20(22.5%)	NS
精神疾患合併	7(3.9%)	5(5.6%)	NS
特定妊婦	28(15.5%)	20(22.5%)	NS

*t-test、 χ^2 検定

結果1 両群における1ヶ月健診でのEPDS \geq 9点の割合



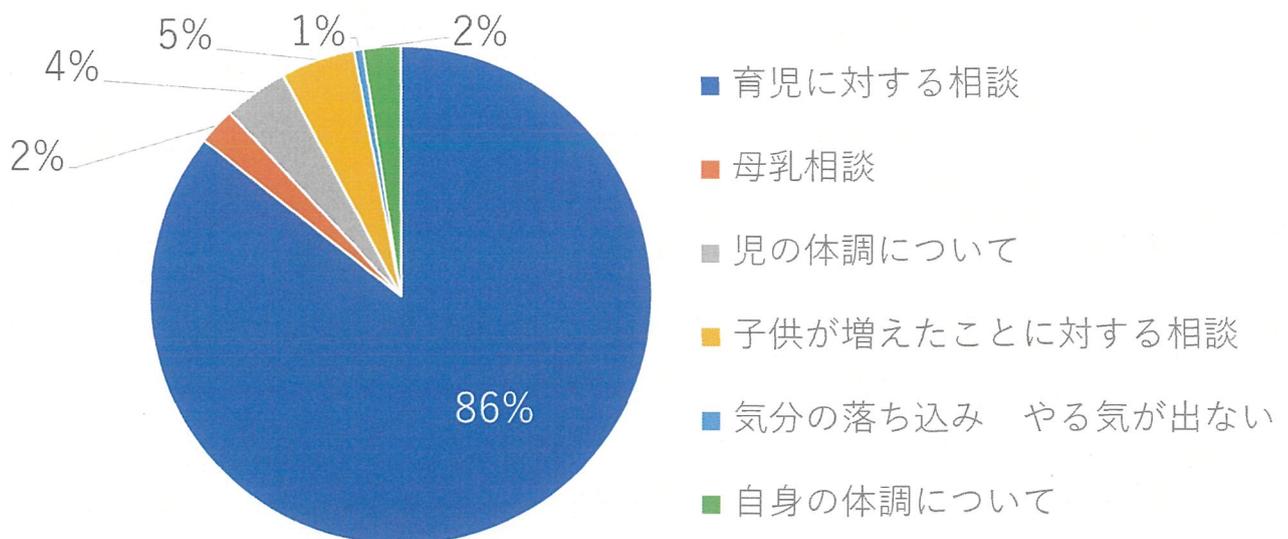
結果2 両群のリスク因子別にみたEPDS \geq 9点の割合

	産後1ヶ月 EPDS \geq 9	産後1ヶ月 EPDS<9	p-value (χ^2 検定)
初産婦 A群(n=77)	9(11.7%)	68(88.3%)	p<0.05
初産婦 B群(n=28)	9(32.1%)	19(67.9%)	
帝王切開分娩 A群(n=62)	5(8.1%)	57(91.9%)	p<0.05
帝王切開分娩 B群(n=36)	8(22.2%)	28(77.8%)	
急速遂娩 A群(n=42)	4(9.5%)	38(90.4%)	NS
急速遂娩 B群(n=20)	4(20.0%)	16(80.0%)	
精神疾患合併 A群(n=7)	1(14.3%)	6(85.7%)	NS
精神疾患合併 B群(n=5)	3(60.0%)	2(40.0%)	
特定妊婦 A群(n=27)	6(22.2%)	21(77.8%)	NS
特定妊婦 B群(n=20)	8(40.0%)	12(60.0%)	

小括2

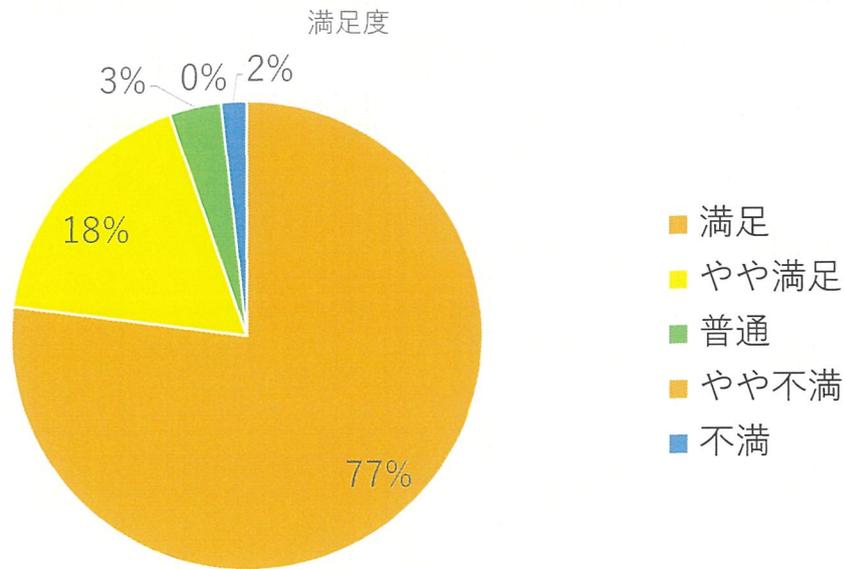
- 産後2週間においてEPDS 9点以上の症例が15%認められた
- 産後2週間健診を行なった群では、行わなかった群と比較して1ヶ月健診時にEPDS9点以上となる割合が有意に少なく、早期に介入し、適切に対応することが有用であると考えられる
- 急速遂娩例、精神疾患合併症例、特定妊婦ではEPDS9点以上の症例の割合のは両群間で有意差を認めなかった

2週間健診での相談内容



産後2週間オンライン健診 アンケート結果

満足度 n=113



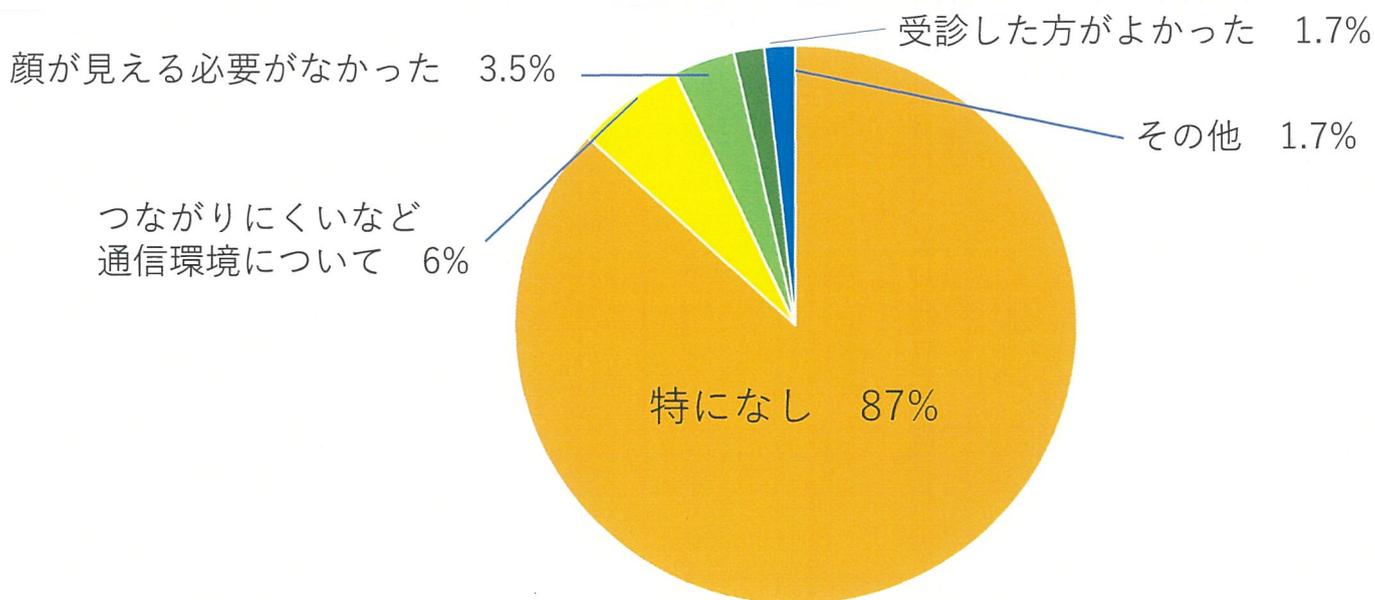
産後2週間オンライン健診 アンケート結果

よかった点 (複数回答可) n=113



産後2週間オンライン健診 アンケート結果

不満に思った点 n=113



まとめ

- 産後2週間でEPDS高値となる産婦は15%存在し、健診によるスクリーニングで早期介入することにより有意に低下した
- オンラインでの産後健診においてEPDSを用いたスクリーニングが可能で、早期介入を行うことができた
- 産後健診での相談は育児に関するものが多くオンラインでも対応可能であった
- オンラインでの産後健診は利便性に富み、満足度が高い